ドイツマールブルグ留学報告書

国際学部地域文化学科ヨーロッパアフリカ研究コース４回生　山下　龍介

私は夏学期にマールブルグへ留学をしていました。マールブルグはドイツのヘッセン州にある大学都市です。人口はおよそ８万人ほどの町で、そこの町にある現存するプロテスタントが設立した総合大学で最も古いフィリップ大学で勉強をしていました。町の印象は、天理市に似ていて、とても穏やかで自然が多い町で、もう一度行きたいと思えるような町でした。(今度は旅行としていきたい)ただ、過ごしやすさとしては、あまり日本人がいなく初めのほうは少し心細い感じがあります。町の写真を下に貼ってます。



授業はドイツ語の授業のみを履修しました。私ははじめは上から１つ下のクラスに行っていました。しかし、自分には合わないと感じ、もう一度基礎からやり直すことにして、一番下のクラスに行きました。基本的には下のクラスは英語で授業をしてくれます。上のクラスに行けばどんどん授業はドイツ語だけになっていきます。そして授業に関しては、学期が始まる前の授業は、平日の朝９時から昼の１２時までドイツ語の勉強をしました。私のクラスはペアワークやフィールドワークが多いので、英語が話せないと何もできないと感じました。私は多少英語が話せたので大丈夫でした。なのでここでは英語も身に付きました。

基本的にはメンザという学生支援課のようなところにある食堂で昼と夜ご飯を食べてました。他は、サブウェイやマックといった日本にもあるチェーン店で食べることもありましたし、スーパーで食材を買って食べることもありましたし、Döner という１個７ユーロのケバブを食べて過ごしていました。特に土曜日と日曜日は食堂やスーパーは閉まってしまうので、よく週末は買い溜めをし

たビールとケバブを寮で食べてました。私が住んでいた寮はインド系の人が多くて毎日共同のキッチンがスパイスの匂いですごいことになります。

私は、初めのオリエンテーションでみんな仲良くなるはずが、大学への支払いが終わっておらず参加できませんでした。そんな私でしたが、学期始まる前のドイツ語で友達を作ることができました。そのできた友達の８割が日本に興味がある子多くて、日本に行くという子もいたので、また会える子が大半だと思います。

そして週末は大学のスポーツセンターで予約制のサッカーをしたり、近くの大都市フランクフルトに行って買い物をするのが楽しかったです。

これから留学を考えている学生へ、私から言えることはいっぱいありますが３つです。まず、１つ目はしっかり行く場所のことについてちゃんと調べていくことです。例えば、ビザを申請するためにどれくらいお金が必要か、行く空港からどうやって自分の留学予定先に行けるかなどです。私は全く調べずに行き、一日目に無賃乗車してしまいました。ドイツは改札がないので、これができてしまいます。なのでしっかり調べてから行きましょう。そして２つ目は英語は日常会話程度は話せるように勉強してから行くことです。もちろんドイツなのでドイツ語話す人が多いです。しかし、マールブルグは大学都市なのでほかの国の人もたくさんいます。その人たちが必ずドイツ語を話せるとは限らないので英語は話せたほうがコミュニケーションがとりやすいです。最後に、自信をもってドイツ語や英語に挑戦してみてください。向こうの人も文法がぐちゃぐちゃでもわかろうとしてくれます。例えば外国人が日本語を話すときに文としてはおかしいが、私たちはわかろうとしますよね、それと同じです。なので積極的に話しかけましょう。